



不定詞：疑問詞＋不定詞



不定詞：疑問詞＋不定詞：間接疑問への書換：解説

❖ what to <動詞>：何を<動詞>したらいいか…。

◇ what <主語> should <動詞>：<主語>が何を<動詞>すべきか…。

He doesn't know what to do.

He doesn't know what he should do.

What to do is a personal decision.

What you should do is a personal decision.

The question is what to do about it.

The question is what you should do about it.

彼は、何をしたらいいのかを、わからない。

何をしたらいいかは、個人の選択だ。

問題は、それについて何をしたらいいか、である。

疑問詞＋不定詞は、助動詞shouldを用いた間接疑問で書き換えることができる。

疑問詞＋不定詞を間接疑問節に書き換える際は、間接疑問節内の主語を何にするかに注意。不定詞句の意味上の主語は、基本、その文の主節の主語と同じになる¹。例えば「He doesn't know what to do. (彼がすべきことを、彼がわかっている)」であれば、動詞knowの動作主体も動詞doの動作主体も同じheである。そのため、主語が異なる場合は間接疑問しか用いることができない（例：「He doesn't know what his son should do. (彼の息子がすべきことを、彼がわかっている)」）。

¹in order toなどの副詞的用法の不定詞句であれば「for <人>」の形で不定詞句の意味上の主語が明示できるので、主節の主語と異なる主語を不定詞句の動詞に割り当てることができるが（例：「I paid a lot of money to go to college.」→「I paid a lot of money for my son to go to college.」）、疑問詞＋不定詞ではこうした形で意味上の主語を書き加えることはできない。